

●大野城市芸術文化振興プラン実施スケジュール（案）

【資料1】

方向性・テーマ	基本施策	実行プラン	重点的に実施する取組	R1（9月～）	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10
中間年度見直し・次期計画策定							アンケート作成	アンケート配布・回収 内容検討 最終調整			次期プランの方針の検討	次期プラン検討 市民アンケート実施	次期プラン策定
① 情報・知ること	(1) 芸術文化活動の情報発信体制の充実	① 芸術文化活動情報発信の基盤整備	・芸術文化情報サイトの構築及び周知	サイトイメージに関する情報収集		サイトの基本機能整理	仕様書作成(機能詳細整理)管理・運用の検討	サイト構築周知・動員	対象に合わせた周知 サイトを絡めた事業の検討	●対象者（世代、登録対象者等）に合わせた周知方法の検討・実施			
		② 芸術文化に関する情報内容の充実	・情報をより多くの市民に伝えるためのプッシュ型情報発信方法の検討及び実施	—	広報紙配架場所調査方法の検討	まどかひあと協議	情報の森整備協力	情報発信方法の確認、検討 プランに関する市ホームページの作成、公開	プッシュ型情報発信方法（インスタグラム）の開設	●プッシュ型情報発信（インスタグラム）方法の活用検討・実施			
② 芸術文化がもたらす魅力を伝える活動の推進	① 芸術文化の魅力を伝える機会の創出	・芸術文化の多様な魅力を伝える機会の創出				【SNSや動画投稿サイトの活用】 実施及び検証	【SNSや動画投稿サイトの活用】 まどかフェスティバルでのオンライン配信実施	サイトとSNS・動画投稿サイトの連携の検討	インスタグラムを用いた効果的な情報発信の検討・実施	●多様な方法での実施事業の取組の紹介（アプローチ方法の多様化）			
		・芸術文化レポーター制度の構築				【市民と芸術家との交流機会の創出】 ピアリング・情報収集準備（一部情報収集）	【市民と芸術家との交流機会の創出】 ピアリング対象・方法等の検討、実施 支援の検討	市民レポーター制度の検討（アートマネジメント研究）	＜レポーター制度＞ 共同研究及び制度の構築 制度の在り方、座組の検討	●ツナグトレポーター制度の実施	レポーター制度の子どもレポーターなどビジネスイベントの検討		
① 誰もが体験・鑑賞できる環境づくり	(1) 芸術文化に興味を持ち、誰もが体験・鑑賞できる環境づくり	① 誰もが体験・鑑賞できる環境づくり	・芸術文化活動の入口を作るための環境整備及び考え方の普及	芸術文化に対するアクセシビリティの調査研究の協議	芸術文化に対するアクセシビリティの調査研究の協議及び実施	芸術文化に対するアクセシビリティの調査研究の実施 ハンドブック作成、活用方法検討	ハンドブック周知	ハンドブック周知（芸術文化体験イベントの実施）	大野城市まちづくり出前講座へのメニュー化	●身近な芸術文化活動を知ってもらう機会の創出 ●「芸術文化ワークショップ体験講座」実施			
		② 誰もが体験・鑑賞できる機会の創出	・市や大野城まどかひあとによる地域（各コミュニティセンターや公民館、学校等）での芸術文化イベントの実施及び支援	—	—	まどかひあとにおいて劇場体験プログラム等実施 情報収集、情報公開	ピアリング対象・方法等の検討、実施 支援の検討	身近な場所での芸術文化体験イベントの実施	コミでのWS実施 WSでの取組周知	●市民向けワークショップ実施			
① 若い世代の芸術文化活動の担い手の育成	(1) 芸術文化の創造・継承活動への多面的な支援	① 若い世代の芸術文化活動の担い手の育成	・多様なジャンルを体験できる機会の提供	—	—	ピアリング・情報収集準備（一部情報収集）	ピアリング対象・方法等の検討、実施 支援の検討	多様なジャンルの体験ができるイベントの検討	文化連盟への協力 （多様なジャンルに触れる機会の創出）	●多様なジャンルに触れる機会の創出			
		② 芸術文化活動の企画・運営者（団体含む）への支援	・芸術文化情報サイトでの各団体のPR及び支援情報の一元化	文化連盟等の文化団体への支援		【文化連盟への支援】 文化連盟団体紹介ページの充実化	【支援方法の検討】 ピアリング・情報収集準備（一部情報収集）	【支援方法の検討】 ピアリング対象・方法等の検討、実施 支援の検討	支援方法の検討	サイトの周知	●アーティスト、活動団体向け支援情報の収集、周知		
① 芸術文化を活かす担い手をつなぐ機能の充実	(2) 芸術文化を活かす担い手をつなぐ機能の充実	① 芸術文化を活かす担い手をつなぐ機能の充実	・（仮称）よろず相談所のあり方の整理及び仕組みづくり	—	—	—	—	—	＜ファシリテーター研修＞ 共同研究及び制度の構築 制度の在り方、座組の検討	●アーティストの活動に関するフォローアップ機会の提供			
		② 芸術文化を活かす担い手をつなぐ機能の充実	・（仮称）よろず相談所のあり方の整理及び仕組みづくり	—	—	—	—	—	—	—	●レポーター養成講座やアーティストの活動に関するフォローアップの取組の実施		
① 団体や芸術分野を超えた交流の促進	(1) 団体や芸術分野を超えた交流の促進	① 芸術分野が広がる活動の推進	・芸術文化情報サイトを軸とした活動団体や芸術分野を超えた交流会の実施	—	—	—	サイトを軸とした交流会の検討	サイトを軸とした交流会の検討	サイトを介した交流会の場の検討	●サイトを介した交流会の検討・実施			
		② 芸術文化を通じた「社会参加」「交流」の機会を創出する機会の充実	・芸術文化活動を通じた社会参加の機会を生み出すための取組の実施	—	—	ピアリング・情報収集準備（一部情報収集）	他分野のイベントでの芸術体験ワークショップの実施	他分野で芸術文化を取り入れた取り組みの情報収集 各分野での芸術文化事業支援	取組の可視化、周知	●芸術文化を通じた社会参加の機会を生み出すための取組の実施			
② 芸術文化を通じた「社会参加」「交流」の機会を創出する機会の充実	(2) 芸術文化を通じた「社会参加」「交流」の機会を創出する機会の充実	② 芸術文化の他分野への活用	・部門連携会議のプラン進捗に沿ったより良いあり方の整理及び実施	連携会議の設置・実施		【連携会議の実施】 【各分野におけるワークショップの開催】 アクセシビリティの調査研究における先進事例の調査及び本市での実施方法の検討	【連携会議の実施】 【各分野におけるワークショップの開催】 未実施	連携会議の実施	連携会議の在り方の検討	●職員向け研修の実施（連携会議委員含む）			
		・福祉、教育、商工業等、他分野で芸術文化を活用してもらうための取組の実施	—	—	—	—	—	—	分野別のアプローチ方法の検討 他分野への周知	●他分野（福祉、教育、商工業等）への芸術文化に関する取組の周知			
① 芸術文化を行う個人・団体のネットワークの構築	(1) 芸術文化に関する多様な機会を活かす仕組みづくり	① 芸術文化活動を行う個人・団体のネットワークの構築	・芸術文化情報サイトを軸とした個人・団体のネットワークを活かす仕組みづくり	—	—	ピアリング・情報収集準備（一部情報収集）	未実施	個人・団体の情報収集	個人・団体の情報収集	●個人・団体の情報収集 ●サイト登録アーティストと市内の活動団体をつなぐ仕組みづくり			
		② 地域の特性を活かしたイベントの実施支援	・「大野城心のふるさと館」を活用したイベントの実施支援	—	—	ピアリング・情報収集準備（一部情報収集）	未実施	ふるさと館を活用した事業の実施	ふるさと館を活用した事業の実施	●「大野城心のふるさと館」を活用したイベントの実施支援			
③ 芸術文化の活動場所の把握	③ 芸術文化の活動場所の把握	・芸術文化活動ができる新たな施設、空きスペースの調査と情報の可視化	—	—	—	—	未実施	活動場所の情報収集	活動場所の情報収集とサイトへの掲載	●活動場所の収集とサイトへの掲載			

 予定通り実施(予定含む)
 一部未実施
 別の方法で実施
 未実施

セル:G8

コメント: 後藤 広治

協議、精註をおこなった様わりではなく、方針まで検討する。

セル:K6

コメント: 後藤 広治

そもそも、研修を実施するのか、増強するのか不透明であるため承認していたが、ここだけみていであること、作成経緯や増強しないのなら、何もしないということか、と思われるので、どのあたりを検討して実施しますよというのをおまわりのでは、

セル:G10

コメント: 後藤 広治

ここでは、まだカスタマイズ(オンライン学習)での活用を行い、どれだけ効果増強に効果があったかというより、高質文化の能力を伝える上でK6の効果がどれだけあったかを検証するもの。まだカスタマイズ(全体的より)は、まだか文化型(高質文化)に特化して、効果、
・ユーザーとして、有効性がユーザー側(文化型)に効果を得ており、まだカスタマイズ(高質文化)で効果の検証はユーザー側(高質文化)に特化して実施する。
・今後、当該が第一歩(高質文化)に的を絞るべきかを検討する。
・すでにまだどかあり(高質文化)で効果を得ているのであれば、ヒヤリングを行うことも可能。

セル:J12

コメント: 後藤 広治

「まだウェブと駆動しているが、まだ高質文化に関する情報、すこし高質文化に特化した形で書き方を考えている。

セル:J13

コメント: 後藤 広治

・文化型に特化せず、他団体も見て調査
・すでにまだどかあり、ヒヤリングで情報をもっているのであれば、令和3年度に書きとりを行う。

セル:J14

コメント: 後藤 広治

【文化型への調査】
文化型資料がページでK6の活用、リンクなど強化している。

【現状把握方法の検討】

→文化型に特化せず、他団体も見て調査
・すでにまだどかあり、ヒヤリングで情報をもっているのであれば、令和3年度に書きとりを行う。

セル:J17

コメント: 後藤 広治

・今年度ずいとの仕様を検討する際にコンテンツの整理を行うので、その間にサイト内でのよろず相談の必要性も検討する。

セル:G19

コメント: 後藤 広治

「クラウドサービス」の調査結果での先進事例調査を指導する予定だったが、そもそも、プラットフォームの先進事例調査は他団体の高質事例調査であり、ある人々に参加できる高質事例の調査ではない。
・高質事例の調査は高質文化、文化型、事業型であり、高質文化事例も高質文化事例ではない。それについて、調査やけてあるかどうか。そして、情報を出発点として、ある人々への事例につなげてはどうか。

セル:K20

コメント: 後藤 実美子

アンケートシート調査で調査できないが、

アンケートシートが活用できる場として資料のワークショップを想定